



春日部市立桜川小学校 令和3年7月1日発行

学校だより 7月号

児童数623人

(7/1現在)

春日部市大倉496-1 TEL 746-6238

桜川小HP <https://schit.net/kasukabe/essakuragawa/>

学校教育目標
進んで学ぶ子
(かしこく)
思いやりのある子
(やさしく)
体をきたえよく働く子
(たくましく)

個性とは何だろう

梅雨もそろそろ中頃を迎えたでしょうか。夏至も過ぎ、間もなく夏本番となります。6月3日、本校を会場に2年ぶりに行われた市内陸上大会東ブロック大会において、7種目22競技中、12の競技で桜っ子が見事1位に輝きました。2位、3位と上位入賞者も多数、桜っ子の活躍に思わず笑みがこぼれました。この結果はもちろんですが、多くの桜っ子が記録と体力の向上を目指して自主的に練習に参加し、粘り強くやり抜いてくれたことが何より嬉しいです。この経験は、今後の生活に大いに役立つことでしょう。

さて、今回は“個性”についてお話しします。“個性”という言葉が頻繁に取り上げられていた時期があったと記憶しています。20年以上前になるでしょうか。あるラジオ番組で「仙台のある高校で、遅刻してきた生徒が注意を受けたときに『これは俺の個性だ』と言い返してきた」という話や、「茶髪に染めピアスをして診察している若い医者に対して先輩が注意をしたところ『これは僕の個性です』と言い返された」という話が紹介されました。この話にとっても違和感を覚えました。当時、担任だった私は、この違和感を子供たちに伝えるとき、どのように伝えたらいいのだろうと悩んでいました。そんな折、佐賀大学の新富教授の講演を聞く機会がありました。講演の中で、個性にまつわるエピソードとして、教授はこんな話をされました。

ある日、学生が教授の自宅に遊びに来ました。教授には大学生と高校生、そして小学生の3人のお子さんがいます。お客さんである学生に3人の子供が紹介される中で、大学生の子は得意なバイオリンを披露し、高校生の子は得意なピアノを披露しました。最後に小学生の男の子は、腹踊りを披露しました。腹踊りをする男の子を見て、学生は「個性的なお子さんですね。」と言ったそうです。教授も「個性がある」と思いましたが、学生の言う「個性」とは意味が違うと感じました。学生の言う「個性」は「変わっている、人と違う」という意味で使っています。しかし、この男の子は、お客さんに何かおもてなしをしたい、でもバイオリンもピアノも弾けない、どうすればいいか、何ができるかと考え悩んだ結果が腹踊りだったのです。この話から、個性とは自分ができていることを真剣に考え努力した末に表れた結果であり、その結果が人それぞれ違って来る、それが個性だと考えたそうです。

この話を聞いて、わたしは納得したというか何かストーンと心に落ちるものを感じました。個性とはただの好き嫌いではない、よく考え努力した先に見えてくるもの。「嫌いだからやらない」ではなく、まずは一生懸命取り組んでみる。その先にきらりと光る個性が現れるかもしれません。桜っ子の輝く個性をたくさん見届けたいと思います。(校長 加藤)

地域と共に はぐくむ やさしさと笑顔あふれる 活力ある学校

6月は、たくさんの子供たちの活躍があり、とても輝いていました。

7月の生活目標 始まりと終わりの時刻を守ろう

3年 大型カルタ体験(郷土学習)



春日部市 小学校陸上競技大会 東ブロック大会 (本校会場)